

主要輸出国・地域の生乳生産量は下半期に増加に転じる可能性も

欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2022年9月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会9月会合がビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では、EUの近況として、①2022年1～7月の生乳生産量は前年同期比で0.5%減少したこと、②庭先乳価(牧場出荷)は19か月にわたり上昇を続けていること、③EUの乳製品価格は品目によっては低下もみられるが依然として高水準で推移していること、④食品インフレが消費者の購買力への懸念を高めていることなどを報告している。また、世界の近況として、主要乳製品輸出国・地域では2022年1～7月の生乳生産は前年同期比0.9%減少したものの、下半期には増加に転じる可能性があることも指摘している。一方で乳製品需要は堅調に推移し、中国の輸入量減少を東南アジアなどの活発な購買が部分的に相殺していることを述べている。さらに報告書は、EUの市場は、生乳価格が高いにもかかわらず集乳量は幾分低調であること、資材コストは高止まりしていること、ウクライナの紛争は農産物、肥料およびエネルギーの市場に影響を与え続けていること、ガス不足やエネルギー価格高騰が特に乳業の懸念材料であること、環境上の制約、家畜福祉基準、労働力不足が問題となっていることなど、かなり特殊な状況にあることを指摘している。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った)

MMO 経済委員会の第43回会合は、以下のミルクサプライチェーンを構成する組織の専門家の参加を得て、ビデオ会議で2022年9月26日に開催された。

- COPA-COGECA (欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会)
- CEJA (欧州青年農業者協議会)
- EMB (欧州酪農委員会)
- ECVC (ピア・カンペシーナの欧州組織)
- EDA (欧州乳業協会)
- Eucolait (欧州乳製品輸出入・販売業者連合)
- Eurocommerce (欧州商工会)

注:ピア・カンペシーナとは、世界約70カ国の農民組合(小規模農家や農業労働者の組織)などのネットワークで、スペイン語で「農民の道」の意味。

会合でのプレゼンテーションと情報交換では、次の点が強調された。

EUの2022年1～7月の生乳生産量は前年同期比0.5%減

2022年1～7月のEUの牛の生乳集荷量(集乳量)は、昨年水準を下回った(-0.5%)。生乳出荷量の増加を報告したのは、加盟国のうちポーランド(+2.4%)、イタリア(+0.3%)、デンマーク(+0.4%)、ベルギー(+1.3%)など9か国であった。主要生産国の集乳量は、ドイツ(-1.3%)、フランス(-1.3%)、スペイン(-1.9%)、アイルランド(-0.4%)、オランダ(-0.2%)の減少が続いている。

また、EUの乳製品の生産量は、クリーム生産量が1.1%増加した一方、全粉乳(-4.3%)、濃縮乳(-3.7%)、脱脂粉乳(-2.3%)、バター(-1.9%)、発酵乳(-1%)、飲用牛乳(-0.7%)などの製品は減少した。

EU では庭先乳価の上昇が 19 か月にわたり続く

EU の平均庭先(牧場出荷)乳価は、過去 19 か月間にわたって上昇しており、近年を大きく上回る水準になっている(7 月は 1 キロ当たり 51.1 ユーロセントで、5 年間平均より 47% 高かった)。2022 年 8 月の加盟国の予測では、さらに 1 キロ当たり 52 ユーロセントまで上昇するとしている。すべての加盟国で生乳価格は前年を上回った。上昇率が高かったのはリアニア(+76%)、ラトビア(+63%)とベルギー(+58%)で、低かったのはキプロス(+1%)、マルタ(+8%)とフランス(+18%)だったことが報告された。

2022 年 7 月の数値で見ると、集乳された生乳全体の 4.3%が有機乳だった(加盟国のうち 23 か国からの報告による)。有機乳の価格プレミアムは過去 12 か月で大幅に低下している(7 月の価格差は 1 キロ当たり 4.5 ユーロセント)。2 か国の加盟国(ラトビア、ベルギー)では、有機乳の価格は一般品よりも低くなった。

EU における酪農生産のための飼料コスト(穀物、菜種粕、大豆粕の混合物に基づく)は、2020 年と比較して 80%程度上昇した。

EU の乳製品価格は高水準で推移

EU の平均乳製品価格は高水準にある。EU の脱脂粉乳価格は過去 4 週間で 2.8%上昇し、現在では 1 年前より 43.1%高い水準にある。全脂粉乳価格は 7 月初めに記録的な水準(100 キロ当たり 524 ユーロ)に達し、先月は 1.4%低下し、現在は 2021 年 9 月に比べて 48%高い水準にある。EU のホエイパウダー価格は 2022 年初から 6.9%低下し、現在は 1 年前と比較して 8.7%高い。バター価格は過去 12 か月で 74%上昇し、2022 年 5 月以降、100 キロ当たり 700 ユーロを超える水準で推移して

いる。チーズ価格も今年に入ってから概ね上昇している。

供給(生産量+輸入量)から需要(国内消費量+輸出量)を差し引いた残余乳製品に基づく EU 在庫レベルは、民間の脱脂粉乳在庫量が 2022 年の最初の 2 か月に非常に低い水準まで減少したが、3~6 月に内需と輸出が減少したことで約 13 万トン程度までに改善した。バター在庫量も 2022 年初には非常に少なかったが(約 9 万トン)、今年前半には改善している(15 万トンに近い)。

なお、小売需要は価格上昇の影響を受け、また製造量は集乳された生乳の低い脂肪含量の影響を受けているが、市場全体で見ればバランスが取れている。

チーズの在庫量は 3~6 月に増加したが、例年に比べるとまだ低い水準である(約 25 万トン)。国内のチーズへの需要は依然好調であるが、数か月前ほどは強くない。

2022 年下半期に世界の主要輸出国・地域の生乳生産量が増加に転じる可能性も

2022 年 7 月まで、EU、ニュージーランド、オーストラリア、英国、ウルグアイで生乳生産量が減少してきた。全体として、主要輸出国・地域(オーストラリア、EU、米国、英国、ニュージーランド、アルゼンチン、ウルグアイ)の生乳集乳量は 7 月に 0.1%減少し、2022 年の最初の 7 か月間で 0.9%減少した。2022 年下半期には生乳生産量が増加に転じる可能性がある。

世界の需要は堅調に推移し、中国の輸入量は減少するも、東南アジアなどが活発に購買

世界の牛乳乳製品への需要は適度に堅調に推移しているが、ゼロコロナ政策が牛乳乳製品の消費パターンと消費者の購買意欲に

影響を与えた中国の需要減少により、貿易額は昨年より減少した。なお、中国の輸入量減少は、他の主要輸入国(メキシコ、東南アジア、アルジェリア)からの活発な購買によって部分的に相殺された。EU とニュージーランドは2022 年上半期に輸出シェアを若干落としたが、それでも世界の輸出量(生乳換算)の 55%を占め、米国と合わせると 78%になる。米国は輸出シェアを 21%から 23%に伸ばした。英国、中国、インドネシア、米国、日本が、2022 年上半期の EU の輸出先上位 5 か国(シェア 40%)である。

食品インフレが消費者の購買力への懸念を高める

消費者の購買力に対する懸念が高まっている。乳製品の小売販売量は減少しているが、一部の加盟国では金額ベースでは安定的に推移している。食品インフレは多くの加盟国で急激に加速しており、低所得世帯のより安価な代替品への切り替えや買い控えを引き起こしている。レストランの売上は上半期に回復し、新型コロナ発生以前の水準に戻った。

欧州委員会は、2022/23 年の牛乳乳製品市場の短期見通しの最新版を発表した。高温で乾燥していた夏は、牧草の確保(供給の安定性)と品質、そして作物の収穫量にマイナスの影響を与えた。場合によっては、農家はすでに冬用飼料の一部を使用している。したがって、2022 年の EU の生乳生産見通しは依然としてマイナス(-0.5%)である。乳固形分も飼料の確保と品質の低下からマイナスの影響を受け、そのため処理加工用の生乳の供給確保がさらに制約されている。EU の輸出量は全体的に減少することが予想されるが(特に脱脂粉乳と全脂粉乳)、すべての乳製品の国内使用量は安定的に推移する可能性がある。

今後数か月間の乳製品価格は高めに推移する見通し

現在の市場はかなり特殊な状況にあり、生乳価格が非常に高いにもかかわらず EU の集乳量は幾分低調である。資材コストは高止まりしている。ウクライナの紛争は農産物、肥料およびエネルギーの市場になお影響を与え続けている。ガス不足とエネルギー価格は、特に乾燥工程と生乳処理において、業界にとって大きな懸念材料である。また、環境上の制約、家畜福祉基準、労働力不足が、一部の加盟国で問題を引き起こしている。乳製品価格は今後数か月間、かなり高めに推移することが予想される。

参考資料:

- 1) https://agriculture.ec.europa.eu/data-and-analysis/markets/overviews/market-observatories/milk/mmo-meeting-reports_en MMO economic board meeting report – 26 September 2022. European Commission.

(資料閲覧:2022 年 9 月 30 日)

(担当:Jミルク 国際グループ 新光一郎)